

11 羽生市の地名 江戸時代、羽生町場を中心に84ヶ村で羽生領を形成していたことが、「新編武蔵風土記稿」に記されている。当時、羽生は「羽生・埴生・羽丹生」の文字が使われていたようである。蘆塚一三朗著「埼玉県地名誌」によると、八二ウの名は、定義的には埴生と書くべきで、埴（八二）には、粘土、赤土の意があり、羽生の生（ウ）には村の定義があるから、羽生には粘土・赤土を産する村の意に解される。また、羽生・埴生の地名は全国に多く、千葉県成田市の埴生郡、新潟県南蒲原村の羽生田、京都府船井郡園部町の埴生、福岡県中間市の埴生郷等がある。

これらの市町村は、それぞれ「埴生」を埴輪の産地として解している。よって、羽生の地名も埴輪の産地から起こったとも考えられる。

市内の各地に古墳の数も多く埴輪等も出土しているが、埴輪の窯跡はいまだ一つも発見されていない。